



巻頭言



宗教部長

野村 信

「地の塩、世の光」

あなたがたは地の塩である。
だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。
あなたがたは世の光である。
山の上にある町は、隠れることができない。

(マタイによる福音書五章十三節)

新入生の皆さん、入学おめでとう！四年間の、幸いな出発の時となりますように。在校生の皆さん、はりきって新学期を過ごしてください。新しい年度が、どの人にとっても、良い、充実した一年となりますように！

ところで、皆さんは本学が大切にしている「建学の精神」を知っていますか。昨年、卒業生たちを対象にアンケート調査をして、本学の「建学の精神」を尋ねたところ、半数以上の人が忘れていたという結果が出ていると聞きました。そこで、入学したばかりの新入生も、在校生も本学の「建学の精神」を、この時、心によくとめて、大切

にしてください。「建学の精神」とは、どの大学のにもありますが、本学では、「地の塩、世の光」という言葉と、「3L精神」という二つを掲げています。

「地の塩、世の光」とは、新約聖書のマタイによる福音書五章十三節に記されているキリストの教えです。塩は少量でも、人間にも世界にとっても欠かせません。光は弱くても、暗い闇の中ではあたりを明るく照らします。そのように、ほんのわずかなものであっても、私たちが社会にとって大切なものです。キリストは、私たちの働きや存在そのものが、塩として光として役立つことを教えてくれます。

しかも、「地の塩、世の光」とは、私たちの働きや存在だけを指しているのではなく、私たちの心の中にならずかでも「塩」「光」をもつことで、私たち自身を生き生きとさせ、強めるものです。ですから、とても意義深い言葉です。

「3L精神」とは、Life(命)、Light(光)、Love(愛)を指します。この言葉も聖書から採られた言葉ですが、東北学院の草創期に、本学と関わりのある宣教師たちの語った言葉に由来します。世界へ向かって伝道するにあたって、「Life, Light and Love for the World」をモットーにしました。(次頁を参照してください)その結実の一つが、東北学院です。

本学で学ぶ学生の皆さんは、この「建学の精神」のもつ貴い意味を知り、それぞれの人生の歩みに生かしてください。地域・社会だけでなく、私たち自身を豊かにするでしょう。

『まずは『3L精神』に耳を傾けよう』



学長

大西 晴樹

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。学長として、お一人、お一人を心から歓迎したいと思います。皆さんは、大きな時代の変化の中で、東北学院大学において学業をスタートしました。

東北学院大学の教育は、キリスト教に基づく人格教育を土台に、各自の専門科目を修

得することを目的としています。たとえば、皆さんの専門はそれぞれ異なれ、学院大学の学生は、キリスト教に基づく人格教育という共通の教育を受けることになります。

しかし、キリスト教に基づく人格教育といっても、キリスト教をこれまで学んできたことが多くの皆さんにとっては、分かりにくいものがあるのではないのでしょうか。東北学院は、それを分かりやすく伝えるためにスクールモットーとして3つのLという標語を掲げています。Life(生命)・Light(光)・Love(愛)がそれです。

最初のLである生命、すなわち、「いのち」という言葉には、生命体としての有限な

「いのち」という意味以外に、キリスト教では、神から授かった「いのち」という意味があり、それゆえ、自分の「いのち」だけではなく、神から授かった「いのち」はお互いに大切にされなければならぬという教えがあります。いわゆる、「いのち」の尊厳です。

第2のLは、光です。聖書には、「あなたがたは地の塩」、「世の光」であるという有名な言葉があります。この言葉には、塩は料理の際になくしてはならないものですので、必要とされるようになりなさいという意味と、「世の光」、すなわち、この世の暗闇を照らす「光」となりなさいという意味が込められています。「ひかり」とは、世の中を明るく照らし出し、導いていけるような人間になりなさいということとを教えているのです。

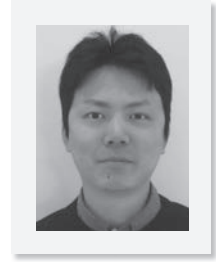
第3のLは、「愛」です。聖書では、「あらゆる知識に通じていようと」、「山を動かすほどの完全な信仰をもって

いようと」愛がなければ何の益にもならない」と述べて、「愛」の大切さが説かれています。そして、その「愛」を人間に示してくださったのが、イエス・キリストだということです。イエス・キリストは一番大切なものを教えてくださっているのです。

じつは、東北学院の「3L精神」は、D・B・シユネーダー東北学院第2代院長によって最初に提唱されました。シユネーダー先生は、「Life, Light and Love for the World」、すなわち、「3L精神」をただ覚えるだけではなく、世の中のために、世界のために用いなさいと述べたのです。皆さんには、大学礼拝に出席して、まずは「3L精神」に耳を傾けると同時に、それぞれの専門を極め、そこで修得した知識や技術を、世の中のために、世界のために大いに役立ててもらいたいものです。



—卒業生たちからの Message



2014年度卒業生
(現在 IT 関連企業勤務)

兼平 幸人

今、各人の前には希望が見える。可能性が目前に広がり輝いて豊かだ。

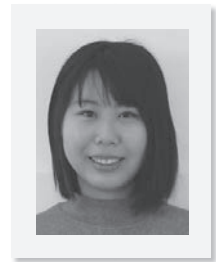
実際の話、大学生活は思っているよりも後の人生に直結してくる。就職や結婚にと、結構リアルである。そんな今まさに社会へ出て人生ジタバタ足掻あがいている私である。

何でもチャレンジしてほしい。大学を出たら関わることが難しいジャンルだつてあるからだ。

極端な話、学生食堂で違った政治信条の友人と殴り合いの喧嘩になるのもいい。宗教観の違いを学友と激論交わす事だって出来るのだ。

いのち短し学べよ学生
あかき唇あせぬ間に、
熱き血潮の冷えぬ間に

新入生の将来に幸あれ。このお節いな拙文に目を通す鋭い着眼点のあなたには他の人よりもうちよつとの幸あれ。



本年3月文学部卒
(金融機関就職)

佐藤 なぎさ

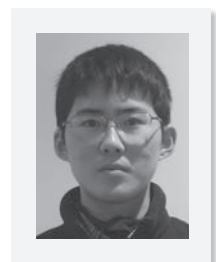
新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。

大学では、勉学、サークル活動、アルバイトなど、学生ごとに過ごし方は異なり、制限なく自由に行動ができます。

しかしながら、充実した時間を過ごせる分、今までの学生生活と比べて、時間はあつという間に過ぎていきます。そのため、入学前に大学生としての理想像をある程度考えておくと、入学後に自分のやりたいことがスムーズに選択できると思えます。

そのような選択肢の中、私が熱中していたのは四年間所属した聖歌隊での活動でした。聖歌隊では和気あいあいとした空間で合唱ができるだけでなく、他大学の合唱団の方との関わりも増え、広い視野で音楽と向き合うことが出来ました。

大学では、自分と異なる価値観を知る機会がたくさんありますが、ぜひ新入生の皆さんも、積極的に新しい物事に触れ、様々な経験をして頂きたいです。最後になりますが、皆さんが充実した学生生活を送れるよう心からお祈りします。



本年3月文学部卒
(一般企業に就職)

大沼 勇貴

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。

皆さんの学生生活が充実したものとなりますよう、祈っております。

私は大学生活を通して、大きく価値観が変わりました。趣味として中学からのんびりと続けていた弓道の他に、体育会洋弓部に入部しアーチェリーを始め、自分の興味のある授業を自分で選択して受講し、これまで触れたことの無かった聖書に親しむことで、視野が大きく広がりました。これらの経験は、就職先の選択にも大きく影響したと思っています。

このように、様々な活動に失敗を恐れずチャレンジできるということは、大学生活の醍醐味でもあります。是非皆さんも、少しでも興味があれば挑戦するとう気持ちを持って、四年間を楽しく過ごしてください。

新入生の皆さんへ

先輩たちの語る

大学生生活あれこれ

——この春に入学した新入生の皆さんに役立つようにと願い、五人の先輩たちにインタビューしました。

Q. 大学礼拝についての印象を聞かせて下さい。

K 最初のころ、どうも入りにくい、お高い場所のような気がしましたが、音楽がきれいで、説教も分かるようになり、出席するのが楽しく、一週間に一回は出るようにしています。毎回何か気づくことがあります。

T 私はキリスト教主義の高校を卒業しましたが、讚美歌の演奏がヒムンレヤーだったので、泉キャンパスのオルガンの生の演奏を聴いたとき、すごく感動しました。

F 自分はクリスチャンなので、讚美歌など音楽には親しんでいます。本学に入学して、大きな、美しいオルガンの音に驚きました。礼拝はとても大切だと思います。人知を超えた神様がいるということに心をとめることは大切です。毎日礼拝があるのがいい。私は週に三回は礼拝に出席しています。

I カトリックの高校だったので、プロテスタントの礼拝に出て、最初は違いを感じて戸惑いましたが、今はすっかり慣れました。

S 私もカトリックの高校でミサがありました。クリスマスとか、年に数回だったので、毎日礼拝しているのは驚きました。オルガンの音がきれいで、いろいろな話が聞けていいと思います。先日、「つさぎとかめ」の話を書きましたが、とても面白かったです。

N 宗教って、暗いイメージがあったのですが、大学の礼拝が明るい感じだったのでよかったです。礼拝を通して大学生活や自分のことを考えさせられます。

——皆さん、大学礼拝に関しては全体的に良い印象を持っているようです。

Q. 大学の講義についての印象は？

K 高校と比べて、自分で考えることが多く、知識を与えられるだけでなく、自分から積極的に取り組まないといけないということを感じています。

T, I それと、教科書だけではだめで、いろいろ読んだり、また講義中に大切な点をメモする必要があります。

F 講義時間が、高校の50分から、90分の長さになり、眠くなるので、寝ない工夫が必要です。例えば、膝をつねるとか（一同笑い）。それと先生に質問したり、親しくなるのも一案ですよ。先生たちはいろいろ教えてくれるので（一同同感）。

Q. サークル活動や友人についてはどうですか？

K サークルとかで必ずしも良い友人や話し相手を得られるというわけではないと思います。

T, H 少人数クラスやゼミで、グループワークをするので親しくなりますよ。自分から話しかけると向こうからも気軽に話してくれます。

F 私は寄宿舎で生活したのがとてもよかったです。その時に親しくなった人たちがいます。サークルもいくつか入るので、そこでも親しい人たちが出来ます。

I, S 自分から話しかけるのが一番いいと思いますよ。みんなすぐに反応してくれるので。

——講義も積極的に、友達作りも自分から、ということが大切ですね。

Q. 日常生活についてのアドバイスは？

——さて、皆さんの大学生活について尋ねましょう。自宅通学の人たちは、多少高校時代からの延長のようなところがありますが、大学キャンパス周辺で一人暮らしをしている皆さんに聞いてみましょう。



T 一人暮らしは、自由でも楽しいですが、自由な分だけ責任があり、自覚的に自分を律していかなければならないですね。

F 最近、一人暮らしを始めましたが、食事を安く上げるために工夫しています。スーパーの閉店の三十分前に行くと、割引の食材を買うとか、ご飯だけ炊いておいて、半額のさしみを買うとかいろいろです。

I 一人暮らしは、最初は不安で心細いですが、一年くらいたつとすっかり慣れます。近所付き合いも大切ですよ。

S アルバイトとか自動車学校へ通うとか、講義や課外活動も含め、一週間の予定をしっかり立てておかないとパニックになりますね。週一日は休んで、部屋の片つけとかします。

——そう、身の回りをいつもきちんとしていないとごみの山になりますよ。（一同実感）

T 楽しく遊んで、そのために良く働くのがいいと思います。順序が逆ですが（一同笑い）

——皆さん、今日はありがとう。新入生の皆さんにいろいろな役に立つ話が聞けました。引き続き良い学びと楽しい大学生活を続けてください。（内容は短くまとめました）



響き渡れ！ 天にまで♪



一緒に聖歌隊で歌いましょう！ どなたでも参加してください！



普段は木曜日の午後に全体練習をしています。部室は礼拝堂の一階にありますので、一度見学に来てください。

choirtgu@gmail.com
ツイッターアカウント
@chor_gakuin まで

☞ 誰かが、面白いことを言ったので、皆さん笑顔です。
(昨年の卒歌の集合写真)

〈声と声との新しい出会い〉

聖歌隊指導者 中川郁太郎



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。聖歌隊の指導をしている宗教音楽研究所の中川です。

宗教部聖歌隊は、大学礼拝で歌うこと

を中心に、入学式、卒業式での演奏やクリスマス・メサイア合唱など、多彩な活動をします。チャペルに集まる学生と先生により良い歌を届けるため、隊員たちは毎週木曜日・学校生活やバイトのことなどを語り合い、ゆつたりとした時間を過ごしています。隊員にはクリスマスチャンもそうでない人もいますし、音楽経験や合唱経験はまったく問いません。①④のどれか一つにでも関心が有るあなたを歓迎します。

- ① 歌をうたう
- ② 声で自分を表現する
- ③ 声と声とを合わせて音楽をつくる
- ④ ステージに立つ



私は泉キャンパスでは「音楽(混声合唱)ほかの授業を担当しています。こちらは「合唱II地味で退屈」というイメージを打破し、生身の声と声とのぶつかり合い(?)を体験する授業です。スマホを介したやり取りでは決して味わえない、声と声との直接的なコミュニケーションの素晴らしさを、一人でも多くの皆さんに味わっていただきたいです。授業でも聖歌隊でも、いつでも皆さんをお待ちしています！

大学礼拝に ついて

基本的なことを 知っておこう

東北学院大学では、講義のある日は大学礼拝を毎日行っています。これは創立した時から現在にいたるまで不変であり、「建学の精神」の具体的な現れです。新入生も在校生も大学礼拝の大切さを知って、午前中にキャンパスにいる時には必ず出席しましょう。皆さんの学びに欠かせない「軸」であり、「養い」です。大学礼拝は教会の礼拝より短く設定され、学生の皆さんを対象に準備されています。

なお、音楽礼拝や英語礼拝など多少変則的なスタイルの礼拝も行っていますが、大学礼拝の基本的なことをお伝えします。

【前奏】

Prelude

第1校時が午前10時20分に終わるとチャイムが鳴り、礼拝堂ではオルガンの前奏が始まります。礼拝堂の最前列から順に着席して下さい。私語は慎み、電子機器はしまつて、心を静めて礼拝に備えましょう。

【讃美歌】

Hymn

司会者が讃美歌の番号を告げます。起立して、心をこめて、声高らかに、一緒に讃美歌を歌いましょう。歌詞を味わうことも大切です。そのうち、自分の好きな讃美歌もできるでしょう。

【聖書】

Bible

司会者が聖書を開くように指示します。礼拝堂に早く来た人は、あらかじめ開いて読んでおくことをお勧めします。聖書は旧約聖書と新約聖書で構成されています。それぞれに頁数が付されていますのでよく確認してください。聖書には、人が生きていく上で必要なすべてのことが網羅されていると受け止められてきましたので、一語一句、大切な教えとして聞くように心がけましょう。

【説教】

Preaching

司会者は、本学の宗教部の先生たちやクリスチャンの先生方であり、教会の牧師の方々が担当される日もあります。どの人も、その日に朗読した聖書に基づいて話されます。一般に「説教」というと、「叱られている」という意味もありますが、「礼拝の説教」は、「聖書を説いて教える」とことと理解してください。大切なことは、聖書の「福音」を聴くことであり、人類への「神の貴い愛」を知ることです。

【祈祷】

Prayer

司会者は、聖書を説いた後、神の恵みと平安、導きを願う祈りを捧げます。祈りの最後に、司会者と出席者全員で「アーメン」と言います。「そのとおり」の意味です。祈りをみんなで共有する思いで、「アーメン」と唱和しましょう。讃美歌を歌った後の「アーメン」も同じ意味です。

【頌栄】

Congregational Response

神の栄光をたたえる短い讃美歌です。頌栄の後、黙祷を捧げます。

【後奏】

Postlude

オルガンの後奏は、「世へ派遣」を意味し、皆さんを礼拝堂から新しい一日へ送り出します。



学生の皆さん



昨年度、大学礼拝を担当された先生方、今年度、担当される先生方、宗教事務領域を担当する職員の方々をご紹介します。

本学の大学礼拝を担当している先生方は、宗教部の先生たちや各学部にも所属するキリスト者の先生たちです。みなそれぞれの専門分野で活躍されており、礼拝では聖書を豊かに説き明かされます。

● 佐々木哲夫先生（院長・前列中央）

旧約聖書の専門家、この春まで学院全体のためにご尽力くださいました。長い間のお働きにまことに感謝いたします。

● 野村 信先生（宗教部長・前列中央左）

十六世紀のジュネーヴの宗教改革者・カルヴァンの研究が専門です。大学の宗教活動の責任者です。

● 鐸木道剛先生（文学部教授・前列中央右）

キリスト教美術が専門で、正教会のイコン（聖像）をはじめ、東欧の芸術にも精通しています。

● 出村みや子先生（前総合人文学科長・前列右端）

古代のギリシア教父オリゲネスの研究が主な専門です。ギリシア文学についても造詣が深いです。

● 川島堅二先生（総合人文学科長・前列左端）

ドイツの神学者シュライアマハーが専門。聖書に登場する角笛などの収集・吹奏が趣味です。



● 中川郁太郎先生（宗教音楽研究所所員・後列右1）

教会音楽が専門で、声楽家、聖歌隊指導者。

● 藤原佐和子先生（大学宗教主任・後列右2）

専門は、エキュメニカル神学です。この春に退職されました。お働きに感謝します。

● 北博先生（大学宗教主任・後列右3）

旧約聖書の研究が主な専門です。この春退職されました。長い間のお働きに感謝します。

● 長島慎二先生（工学部准教授・後列右4）

流体工学が専門です。旭ヶ岡寄宿舎舎監も兼任。

● 原田浩司先生（大学宗教主任・後列右5）

スコットランド宗教改革や長老教会の研究が専門です。本学（教養学部・教養学科）の卒業生です。

● 阿久戸義愛先生（大学宗教主任・後列右6）

二〇世紀の神学者カール・バルト研究が主な専門です。柔らかな語り口調が好印象です。

● 木村純二先生（大学宗教主任・後列右7）

倫理学や日本思想の研究が専門です。泉（1年）多賀城（1・3年）のキリスト教を担当します。

● 吉田新先生（大学宗教主任・後列右8）

新約聖書が専門で、聖書翻訳事業にも携わっています。この春より宗教部の書記を担当します。

● 菊地祐一氏（総務部長・後列左2）

大学事務部門の総責任者で、法人事務局の働きも兼任しています。

● 渡邊義春氏（総務課長・後列左端）

大学事務部を取りまとめ、庶務係、宗教係、秘書係の責任者です。

なお、写真に掲載されていない先生方で、理事長（前学長）の松本宣郎先生を始め、数名のクリスチャンの先生方がいます。

皆様、今年度もよろしくお願いいたします。

第14回 「学生のためのオルガン公開講座」のお知らせ



大学オルガニスト
今井奈緒子

この講座は、礼拝の楽器として用いられているオルガンに親しみ、演奏することを目的としています。専門家である本学の礼拝オルガニストが、各キャンパス礼拝堂のオルガンをを用いて指導します。単位に関係のない講座ですので、卒業まで継続して受講することも可能です。受講場所も開講時間に合わせて、希望のキャンパスで受講することができます。

◆ 受講資格

・楽譜を読むことができ、鍵盤楽器の演奏に多少なりとも心得があること
・レッスン、練習に励む意思のあること

◆ 対象

本学に在籍する学生

(所属学部、学部生・大学院生を問わず)

◆ 内容

オルガンの奏法と作品を学ぶ
(個人またはグループレッスン形式)
ガイダンスと修了演奏会を実施します。

◆ 場所

土樋・多賀城・泉各キャンパス礼拝堂

◆ 受講料

年間一五、〇〇〇円

◆ 期間

五月～十二月(レッスンは月二回ペースで実施。その他自主練習、演奏会準備)

◆ 募集人数

各キャンパスにつき若干名

◆ 講師

小野なおみ

(礼拝オルガニスト)

今井奈緒子

(教養学部教授、大学オルガニスト)

◆ ガイダンス開催日

受講希望者は所属キャンパスに拘わらず、五月九日(木)十六時に、泉キャンパス音楽研究室(礼拝堂一階)の前へ集まってください。ガイダンスの後に受講の意思確認をし、講師との顔合わせ、レッスンの相談、調整等を行います。

出席不可能な場合は事前に宗教音楽

研究所までご連絡ください(022-

375-1185)。なお、希望者多数

の場合は相談、抽選ないし後日オーディ

ションをさせていただきます場合がありま

す。

宗教部

聖歌隊へのお誘い

みなさん、一緒に歌を歌いませんか。中学、高校とみんなで合唱する楽しさを味わった人は大勢いると思います。大学でもぜひ一緒に楽しく歌いましょう。本学の「聖歌隊」は、長く親しまれてきた合唱曲や宗教音楽、また讃美歌を歌い、定期演奏会で発表したり、クリスマスにメサイアを歌ったり、と楽しい企画が幾つもあります。ボイストレーナーの先生がしっかり指導してくれます。秋に合宿の計画もあります。

歌うことの好きな方は大歓迎です。今年度の第一回の会合は、四月十一日(木)の午後三時より、礼拝堂の一階聖歌隊室で行います。以後、火曜日のお昼休みの「火曜練習日」と木曜日の午後三時からの「木曜練習日」に練習します。是非、参加しましょう。

編集後記

新入生の皆さん、緑の広がる両キャンパスで良く学び、語り、活動し、楽しい大学生活を送ってください。午前中講義がある時は、各キャンパスで毎日行われる大学礼拝へ出席し、心の養いをしてください。貴重な時になると思います。

なお、今夏の八月五日、六日に一日でサマー・カレッジが開催されます。誰でも参加できますので、

礼拝堂の入り口に七月初旬に準備されるチラシをご覧ください。聖書の学び、友や先生たちとの語り合いなど、楽しい企画が用意されます。

二〇一九年四月一日

東北学院大学宗教部

編集 野村 信

〒九八〇-八五一

仙台市青葉区土樋二丁目二番二号

2019年度

礼拝オルガニストのみなさん



後列左から：菅原淑子、加藤晶子、小野なおみ、大泉真理、京極扶美恵、今高和枝／前列左から：渡辺真理、日野百合子、今井奈緒子、坂上美美恵、阿部和子(この他に、亀井睦子、長谷部真理子のオルガニストがおられます。)